

## スズメバチ（前編）

深川医師会  
深川市立病院

だいた ころ  
代田 剛

我が家は住宅街の一角にある。敷地には住宅と小さな家庭菜園がある。市が造成の最初から区画整理し作ったもので、当初は新興住宅地で子供の遊び声が絶えなかったが、約半世紀を過ぎた今は老人部落の声もある。7月中旬であった。いつものようにちいちゃん（妻の愛称）が朝食に付け加える大葉を摘みに行って右下腿を虫に刺された。刺された瞬間にかなりの痛みがあった。そして時間が経つにつれ患部の腫れが増し紅斑も拡大した。

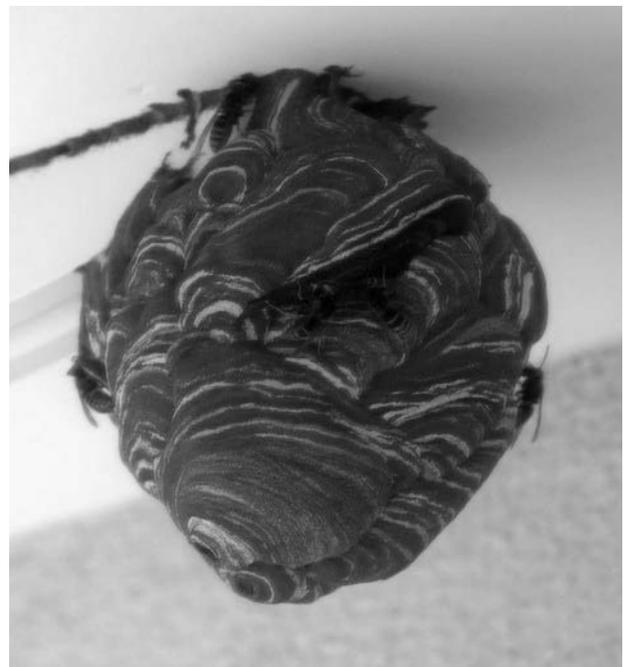
翌日からは保冷剤で冷やさねばならなくなり、皮膚科受診を考えるまでになった。その翌日の朝、ちいちゃんは再び大葉を取るために同じ場所に行ったとき、“ブーン”と虫の飛んでいる音に気付いた。ハチが飛んでいるのを見つけた。黄と黒のタイガーストライプをはっきりと見た。スズメバチではないか。恐れをなしたちいちゃんは直ぐその場を離れ、それ以後決してそこに近寄らなくなった。私も用心しながら行ってみた。隣の家が畑の境目として使っている枕木が朽ち果て、そこに4～5匹のスズメバチが留まったり飛び立ったりしているのを見た。

それから2週間ほど経った。ちいちゃんはベランダに行った。普段洗濯物は室内干しをするのであるが、水切りの悪い洗濯物を干すためである。その時ベランダの屋根裏にぶら下がる直径約20センチのハチの巣が視野に入った。スズメバチの巣である。恐怖が再び甦った。それはスズメバチに刺されたと友人たちに話したら、今度刺されたら入院が必要だし、場合によっては死ぬこともあるなどと吹き込まれたから。調べてみたところ、北海道には14種のスズメバチが生息し、その中でもケブカスズメバチ（日本ではキイロスズメバチと呼ばれているが、北海道ではケブカスズメバチと言われていることが多い）が多いらしいというのが分かった。それから駆除は勿論業者に頼むのもあるが、自分で駆除するのも一方法であるのを知った。幸い防護服一式を市が無料で貸し出している。やってみようと思った。

市に防護服を借りに行った。係員から特に重要な幾つかの防除のポイントを教授された。防護服を正しく着用するのは勿論であるが、実技は頭で思っていたものより具体的であった。まず夜襲をかけること。次いでホームセンターで買った噴霧剤の射出口をできるだけ巣の出入り口に近づけて噴射すること。1cmと言った。そのためには前もって観察して出入り口の場所を知っておくこと。出入り口は1

個である。懐中電灯で出入り口を確認できるようにすることなどである。戦闘に勝てば巣を手でもぎ取れるとのことであった。だんだん気持が高ぶってくるのを覚えた。専門の防除屋さんでも防護服の上から刺されることもあるのだからと、どこから仕入れたのかそんな脅しをちいちゃんはするのである。やられる前に遣っ付けなくてはならないのである。タマ（女王蜂）を取ればいいのだ。夜討ちならスズメバチは皆帰巢して眠っていて、一網打尽にできるだろう。働き蜂が外に出ている日中に駆除する業者より危険は少ないだろうとも思った。あたかも戦国時代の武将の気分だろうか。戦いの立案、方策をすべて一人で決定するのだから。但し実働部隊はたった一人であるが。ともかく銃弾がなくては戦いは始まらない。防護服を借用した足でDCMに寄った。売り場の棚にはスズメバチ用のものが数種置いてあった。それぞれの能書きを熟読しマグナムジェットプロというのを買った。名前も強そうで期待が大きくなった。後は決行するのみである。敵の数は不明である。巣の大きさからすると何百匹もということはないであろうが、こちらはたった一人で立ち向かわなくてはならない。マグナムの缶には直径25cmまでの巣なら対応できると書いてあるので信頼しよう。

これ以降は次回へ。



ベランダの軒下に作られたスズメバチの巣。  
表面に数匹のスズメバチが見られる。